

2020年(令和2年)

第147号

(3月1日)

平安月報

The HEIAN monthly report

発行所：立正佼成会 京都教会
 発行責任者：渉外部長 田中規之
 編集委員長：渉外広報 植田恭司
 〒605-0041 京都市東山区三条東町 230
 TEL (075)762-2211 FAX (075)762-2266

ユース21 京都設立 20 周年記念祝賀会 ～華やかに開催～

ユース21 京都の設立 20 周年記念祝賀会が 1 月 24 日、京都平安ホテルにて午後 6 時から開催され、行政の関係部署責任者及びユース21 京都の加盟 15 団体代表者や実務メンバーが一堂に会しました。



京都教会からも中村教会長はじめ、渉外部スタッフ、男子部長、ユース21 京都の担当者が出席しました。

主催者挨拶は当理事長の澤村悦玄氏（京都教会青年部出身）、続いて、京都府副知事の舟本 浩氏と京都市副市長の村上圭子氏の祝辞がありました。鏡開きが行われた後、当監査の林氏による乾杯の発声があり、歓談の時間へと続きました。

歓談中は弦楽四重奏の音色が会場を包み込み、より一層和やかな雰囲気になりました。演奏が終わると、ユース21 京都の歩み紹介、加盟団体の紹介の時間となりました。

京都教会青年部の紹介では中村教会長と代表者が登壇、今後も加盟団体の一員として役目を全うしていきたいと発表し、会場からは大きな拍手がありました。

最後に当副理事長である高田直浩氏（はたちを祝う

記念式典担当）と石川裕之氏（車いすスポーツ担当）から挨拶があり、お開きとなりました。



ユース 21 京都とは…

1982 年(昭和 58 年)に故 伊住政和氏の呼び掛けによって京都市青年団体協議会を中心に「京都青少年活動推進会議」を設立。京都教会青年部も加盟。1997 年(平成 9 年)に同会議が発展的解消し 3 つのネットワークに分割、設立。

2000 年(平成 12 年)に京都市成人式を運営するネットワークと全国車いす駅伝を運営するネットワークが再統合し、「ユース 21 京都」を設立。

加盟 15 団体。初代理事長に京都府モラロジー協議会の波部尚徳氏。2010 年(平成 22 年)に設立 10 周年式典を開催。理事長に立正佼成会京都教会の澤村悦玄氏が就任。

「君がため春の野にいでて若菜つむわが衣手に雪はふりつつ」…百人一首にある光孝天皇の名歌です。大切な人の長寿を願ってつむ若菜の緑と、袖にかかる雪の白さから、とても清らかな感じが伝わってきます▼若菜は春にとれる薬にする野草のことで、新春にそれを食べると長生きすると言われています。厳しい冬を乗り切った人々にとって、芽吹いたばかりの山菜は貴重な栄養源であったのでしょうか▼ふきのとう、菜の花、うど、タラの芽など、口に含むと苦みがあって、体に良さそうな感じがします。最近の栄養学で、胃腸の働きを促したり、精神的ストレスの改善などにも効果が期待できるということが分かってきたそうです▼旬のものといわれる食べ物は、その時期にいただくことで、体調を整えることができます▼大自然の恵みなのでしよう▼今こそ、山菜を食しながら、大自然に生かされていくことを感じ、心身ともに健康であることを願っていききたいものです。

時時刻々

今月のことば ～満足できる幸せ～

中央支部壮年部長 峰村吉亮

3月号の佼成、会長法話を担当させていただきます、中央支部壮年部長の峰村吉亮です。今月は「満足できる幸せ」です。満足できる条件として2つのポイントを示して下さいました。1つは「欲をはなれると」です。その中で欲は自然のもので、生きるうえでは必要なものと言われ、少し安心した様に思います。しかし、必要以上の欲を戒めて「欲の皮が張っている人は、人として歩むべき道をいつしか見失っています」と。

確かに若い頃、賭け事で負けたらそれを取り戻そうとし、勝ったらもっと沢山にしようと思死でキリがありませんでした。いつしか理性を失う事もあって、今思うと、この言葉がよく理解出来ます。

以前、佼成会で教えて頂いた様に必要以上の欲は貪欲で苦や悩みの種となります。その解決法として、四諦の法門で貪欲を減する事を学びました。その欲を減する1つとして「欲をはなれると徳がくる」と脇祖さまのお言葉を引用され、具体的にお話して下さいました。そして人間がもともと持っている徳分が自然にしみ出ると結んで下さいました。

次のポイントとして「感謝こそ」では少欲知足の精神、欲を少なくして足る事を知る生き方、感謝のうちに暮らす事は、私たちが日頃から心がける姿勢です、と教えて下さいました。そして法華経を通して、仏の教えを学ぶ私たちは、いつでも「満足できる幸せ」のなかにおっしゃって下さいましたが、なかなか頭で解っても感謝出来ない事が多々あります。その体験を1つお話しします。

昨年暮れから、背中、腹回りにブツブツが出来て、それが段々酷くなり、1ヶ月ほど苦しみました。その病気は带状疱疹（ヘルペス）で、身体の左右どちらかにピリピリと刺す様な痛みと、赤い斑点と小さな水ぶくれが帯状に現れる病いです。子供の頃に水ぼうそうにかかった人は体内にその菌が潜伏し、年齢と共に疲労、ストレスなどが引き金となって発症するらしいです。最初はかぶれかなあと思ってほっておいたのですが、段々痛く、かゆくなって来て「正月早々やだなあ、

寒修行もあるし」と思いつつ、我慢出来なくなり皮膚科を受診し、先の病いと診断されました。

この病いについて色々調べてみると、半年以上も苦しんでいる人、痛さのため薬を飲んでいる人、仕事も出来ずにいる等々、とてもつらい経験をされていると知り、私のほうはまだマシで、最近できた新しい薬のお陰もあって早く治ったことを知り、ありがたく思っています。この病いを通して、健康で過ごせた過去が嘘の様に、あちこち身体に支障が出ると不安になります。考えられないケガをしたり、目、耳、歯など色々なところが気になります。人の心はご法やサンガのお陰様でケアサポートが出来ますが、身体は思う様にならない事が多いと感じています。

でも身体も異常を知らせる信号を送ってくれているのですから、それを見過ごさない為にも、会長先生の御法話の様に、すべての事に合掌していく姿勢が必要と受け止めました。佼成会では良くとえに、1本目の矢は受けるが2、3本目の矢は受けない…、早いうちに気付いて対処したら大事に至らないと理解しています。

最後に会長先生は生きていくなかで、授かったすべてに合掌する一、そこに感謝と喜びがあり、ほんとうの満足と幸せがあると結ばれています。今月もこの言葉を胸に精進いたします。

年頭にあたり、今年は「謙虚・素直」をお誓いしましたので、今回の原稿の話しを支部長から頂いた時は、お断りできなかったのが本音でした。済みません。お陰様で平安月報に親しみを感じて、隅々まで読んでいなかった事を恥じております。

この原稿を書いている間、新型コロナウイルスの事が大きく報道されていて、大変不安を感じています。人間の傲慢さの戒めでしょうか。無力さを感じてしまっていますが、人が誕生してから今日まで幾度の試練を乗り越えて来た事実があります。私たちに出来る事（マスク・手洗い・消毒等）を正しく行い、後は信じ、祈りたいと思います。

合掌

新型コロナウイルスへの教団・京都教会の対応 期間3月1日～15日(暫定)

新型コロナウイルスの国内外での感染拡大を受けて、教団ホームページにおいて「本会における新型コロナウイルス（COVID-19）への対応について」として発表されました。それを受けて京都教会では下記の対応とします。

- 教会の開門は 7:30、閉門は 15:00（管理対応）
- 宿直は中止。6:00、18:00 のご供養は行いません。
- 道場当番は支部長と支部長が任命した人1名で行います。当番の入門は 8:30、終了は 15:00 です。

- 地下駐車場は締め切り。東玄関前、普門館前に駐車。
- 戒名当番は2月24日から閉鎖。戒名の申請や交付は事務所で対応します。
- 3月中の式典はなし。ご供養のみとなります。3月5日創立記念式典もありません。
- 期間中の機関紙誌手渡しは中止。
- 訪問、対面による布教活動の中止、延期。
- その他、詳細は教会か各支部長に確認して下さい。

節分会 ～「庚子（かのえ・ね）」の年廻りが始まる～

節分会が2月2日、教会法座席で開催され、多くの会員が参拝しました。

式典は読経供養後、中村教会長のお言葉でした。今回の節分会では年男、福娘、厄年にあたる方々が司会や受付、副導師のお役を務められました。

中村教会長はお言葉で次のように述べました。「東京のご本部では2月3日まで法華三部経を読誦し、立春を迎える心構えをつくります。その節目となるのが「節分」。2月1日にはイギリスがEUを離脱、国際情勢はますます混乱します。

米国のトランプ大統領を始め、自国第一主義を掲げるリーダーが多い中、日本は新しい天皇陛下が誕生、令和となり、「和」の心の時代を迎えます。日本は調和の国。心を養い、次に時代に繋げていくかが大事だと思います。

今年の年廻りである「庚子（かのえ・ね）」は干支で37番目にあたり、180年に1度しか来ません。会長

先生の年頭ご法話に「一つひとつを丁寧に」というお言葉があったように、今年の大切な4つのポイントは

- ①毎日の行いを大切にする
- ②日々新たな気持ちで
- ③不足不満を言わない
- ④財の功德を積んでいく

というものです。

その後、中村教会長は政治、経済、天候の予測についてもふれたあと、九星の生まれ年の運勢を解説。参拝した会員は熱心にメモを取っていました。



涅槃会 ～幸福になる3条件をかみしめる～

仏教3大行事である「涅槃会」が2月15日、教会法座席で開催され、多くの会員が参拝しました。開式後、各支部代表20名による奉献の儀、読経供養、お説法、中村教会長のお言葉と続きました。

お説法では、会員Aさんが自身の生い立ちや京都への転居の経緯を語り、様々な苦労の中で関戸支部長(当時)との出会いを述懐しました。

関戸支部長夫妻には京都での両親といえるほど親身になって関わってもらったことや、中村教会長・関戸支部長が異動し心の支えを失った8年間に、松本主任に声を掛け続けてもらったことに涙ながらに感謝。

佼成会の縁が切れることなく、現在は青年部の仲間と子供たちと一緒に過ごせることが有り難いと吐露しました。

中村教会長はお言葉の中で、20名の着物の奉献の儀に対して、着付けのお役者に心を寄せながら、着物は京都の文化だと感想を述べました。

また2月15日が、約18年間京都教会長を務められた滝口晃央氏の祥月ご命日であることを述べ、諸先輩方にお礼申し上げたいと感謝しました。

そして、庭野開祖から「涅槃会は生きる上で何が大事かを見つける日」とご法話頂いていると紹介。

また今月の庭野会長のご指導にふれ、生きがいを見つけることの大切さを語り、私たちは仏の教えに縁のない方々を憐れんで生まれてきたと述べました。

お説法の内容にもふれながら、幸福になる3条件として、①人と比べない、②目の前のことに努力する、③感謝する、と語り、庭野開祖の本会創立の願いである「一人でも多くの人に、法華経に示された人間の生き方を知ってもらい、本当の幸せを自分のものにして頂きたい」を我が願いとして法をお伝えし、地域1割世帯の導き、10軒に1軒の割合でお経の声が聞こえてくる地域社会を目指したいと結び、会員に精進を促しました。

日常生活の中の仏教用語 ～えっ？こんな言葉も仏教が語源？～

言葉のルーツを知って仏教に親しみを持ちましょう。

【愛嬌（あいきょう）】

仏教用語では「愛敬」と書き、読み方も「あいぎょう」が正しい。

仏さまや菩薩の、慈愛にあふれた柔和な表情を「愛敬相（あいぎょうそう）」というところからきた言葉。誰もが自然に敬愛したくなるような表情である。

本来は、男女を問わずおだやかな表情を指していた

「愛敬」だが、やがて「敬」の字を、美しい、なまめかしいという意味がある「嬌」の字に変えて、女性の性格や外見を表すようになった。「男は度胸、女は愛嬌」がよい例だ。今では、にこやか、かわいらしい、人あたりがよいといった意味で使われる。「愛嬌をふりまく」「愛嬌のある顔」など。

（「仏教早わかり百科～主婦と生活社～」から抜粋）

庭 野 日 敬 開 祖

法 話 集

～開祖随感より～

「牛乳店のおやじでも」

会の歴史を語るとき、私が「牛乳店のおやじと焼きいも店のばあさんが始めた立正佼成会」と言うものですから、「あまり、ざっくばらんすぎるのでは」と注意されることがあります。しかし、これは事実ですから、しょうがありません。少しも恥ずかしいことだと思わないのです。

私がみなさんに知っていただきたいのは、そうした私のような者でも、ご法をしっかりと実行しさえすれば、必ず教を身に体することができ、ご守護がいただけるのだということです。

私は宗教学を専門に勉強したわけでも、山にこもって修行したわけでもありません。ただ教を信じきって、悩み苦しむ人たちの力になってあげたいと、真剣に行じてきました。

私だけではなく、会員のみなさんが、ご法を受持(じゅじ)してくださったことによって今日の佼成会があるのです。そのことを、みなさんに知っていただきたいのです。

いまの会員のみなさんは、私よりもずっと学問もあり、賢い方がたくさんおられます。私を超えて、どんどん前進して行ってほしいのです。そういう人が増えていけば世界の平和は必ず実現します。私は、そう確信しているのです。

「皺(しわ)の間の宝物」

会の創立当初から修行を積み重ねてこられ、ご法を広めてくださった方々が一堂に会して、創立記念日をお祝いできました。たくさん懐かしい顔を拝見して、思いだした話がありました。

かつて武名をとどろかせた武将の一人が、伊豆の伊東にこもって隠居の日々を送っていることを聞いた武田信玄は、「私の話し相手になってもらえまいか」と使いをやります。「いや、私はもう年老いた隠居の身。

もはや私の話などなんの役にも立ちますまい」と武将が固辞すると、信玄はさらにこう懇願するのです。

「老人には皺と皺の間に経験という宝物がひそんでいる。それを役立ててほしいのだ」その信玄の言葉に感激して甲府へ出向いた武将が、さまざまな経験談を語るその話を、信玄は、逐一書き留めながら耳を傾けたと伝えられています。

「皺の間の宝物」とは、いい言葉ではないですか。「古者を尊ぶ国ならば、衰亡することはない」と教えられたお釈迦さまのお言葉も思いだされます。

「欲を捨てる法」

お彼岸は、苦しみや迷いの絶え間のないこちらの岸から、仏さまの世界(彼岸)にいたりたいという願いを新たにする日です。

仏さまは「この経を聞く人で、成仏しない者は一人もいない」とお約束くださっていますが、この経とは法華経のことです。法華経は、どんな人にも仏になりたいという願いを起こさせ、仏さまの世界に導いてくれる教えなのです。

しかも仏さまは、迷いのこちら岸にいる私たちに、「その欲を捨てなければ救われません」と強圧的に命令されるのではなく、逆に、施しの喜びを教えて、いつのまにか欲の心から離れられるように導いてくださいます。

また、人のことをうらんだり、すぐに怠け心に引きずられてしまう私たちに、人生の本当の喜びを教えてくださって、精進せずにはいられないように導いてくださるのです。

仏教は、あれをしてはいけない、これもしてはならないと禁じる教えではないのです。楽しく、易々と仏さまの世界に到達できるように導いてくれる教えが仏教なのです。

(つづく)

3～4月の主な教会行事

3月1日(日)	9:00～	朔日参り
4日(水)	9:00～	開祖さまご命日
5日(木)	9:00～	教団創立82周年記念式典
10日(火)	9:00～	脇祖さまご命日
15日(日)	9:00～	釈迦牟尼仏ご命日 (上記式典はご供養のみ)
4月1日(水)	9:00～	朔日参り
4日(土)	9:00～	開祖さまご命日・花まつり
8日(水)	9:00～	降誕会
10日(金)	9:00～	脇祖さまご命日
15日(水)	9:00～	釈迦牟尼仏ご命日

●メッセージ

ユース21 京都設立20周年祝賀会に出席しました。私自身、青年部時代にユース21 京都の成人式担当副理事長として、充実した期間を送りました。

当時の仲間とは今でも親交があり、他団体との接点を持つことは貴重な体験でした。祝賀会は寒修行中でしたので、親しい曹洞宗のお坊さんに「佼成会では今週、早朝から法華経の読誦している」と話すと、ぜひ三部経を見せてほしいと興味を示されました。

お坊さん相手に、ご法を語るなど失礼極まりないと思いますが、その会話を通して自分自身の信仰を見つめ直す機会を頂いているように思います。